

# ローマへの旅① —エルサレムでの逮捕

使徒の働き21:27-40  
2017,8,27 HKJCF

## 概観

序) ①目的志向のパウロの生き方②  
イエス様とパウロの逮捕③キリスト  
教のゆりかごとしてのローマ帝国

Iパウロの逮捕 V27-30

IIユダヤ人の騒乱 V31-40

IIIローマ帝国とキリスト教

IV結論・適用・祈り

## Iパウロの逮捕

1、パウロの人生の目的(参)R.ウォレン  
1)福音の確立と礼拝2)交わり3)弟子化4)  
聖書執筆の奉仕5)地中海世界への宣教→  
香港JCF設立55年/目的志向/ビジョン  
2、イエス様とパウロの逮捕理由  
①律法主義 ②神殿崇拜  
③民族主義⇒①エペソでの騒乱 v27  
②主もパウロも神殿侮辱の疑い v28  
マルコ14:55-59

## IIユダヤ人の騒乱

1、主は反ローマの疑い、市民パウ  
ロはローマの保護、カイザルへ上訴  
2、逮捕理由  
①エペソの大騒動 ②律法と神殿  
③ギリシャ人による屈辱の歴史  
3、ユダヤ民族主義の問題  
⇒①皮肉にも主は反ローマで十字架  
②パウロはローマ権力によりローマ  
へ③神様の福音宣教:愛の世界拡大へ

## IIIローマ帝国とキリスト教

1、ユダヤ教①律法②神殿の偶像化  
③民族主義に集約:メシア民族として  
自己偶像化⇔ヨハネ/イエス様/パウロ  
2、ローマ帝国は概ね文化・宗教的  
寛容、多民族国家を形成  
3、キリスト教のゆりかごとして用  
いられた 参) エジプト、バビロン  
⇒神様のご計画は①福音を偏狭なユ  
ダヤ民族主義から解放②ローマを経  
て世界宗教へ③パウロの福音の使命  
ローマ11:25-36

## IV結論・適用・祈り

1、ユダヤ教の偏狭な民族愛は十字  
架の福音で全人類への愛へと拡大  
2、西欧社会(2H)で聖書の影響の低下  
とともに人間崇拜/個人(孤人)主義へ  
3、現代社会とキリスト教の課題  
①物質(還元)主義②人間中心主義③価値相対  
主義⇒人間疎外からの回復①民族や人間中  
心主義から個人としての罪と赦しへ②神の  
国の福音を生き愛の拡大へ③神との出会い  
の重要性  
参) アブラハム、モーセ、ダビデ、イエス  
様、パウロ⇔快楽/律法/民族主義